

雪ゆきのうち
に
仏みの御名なをと
なふれば
つもれる罪つみぞ
やがて消きえぬる

法ほう然ねん上しやう人にん

音おともなく静しずかに
降ふり積つもる雪ゆきのよう
に

何なに気げなく作つくった罪つみが

知しらず知しらず

心こころに積つもつてい
く

日ひの光ひかりが

ゆゆつくり雪ゆきを

ととかすよう
に

お念ねん仏ぶつを称とえ
ると

積つもつた罪つみが

やがて消きえてゆ
く